

献辞

同志社大学法学部名誉教授麻田貞雄先生のご退職を記念し、ここに記念論文集を刊行させていただくことができました。お慶びの気持ちとともに、謹んで先生に献呈させていただきます。

先生は、一九三六年一月二九日に京都でお生まれになりました。同志社高等学校を一九五四年にご卒業後、グルー基金留学生としてアメリカのカールトン大学に進まりました。そして、「歴史専攻の優等生 (B.A. *magna cum laude*, Honors in History)」という輝かしい成績とともに一九五八年にカールトン大学をご卒業になりました。その後は、イェール大学大学院博士課程にお進みになり、アメリカ史および外交史専攻で一九六三年に学位Ph.D.を取得されています。

そして先生は、一九六三年に同志社大学アメリカ研究所初代研究員に着任するために帰国されました。その後、アメリカ研究所助教授を経て、一九七二年四月に助教授として私たちの法学部においでいただき、同年十月には同志社大学法学部教授となられました。ご退職までの四三年という長きにわたり、同志社大学での研究と教育にご尽力くださいました。また、京都大学では都合七年間にわたり外交史を

に担当になられ、あるいは、ハーヴァード大学の Charles Warren Center for Study in American History
と London School of Economics and Political Science の客員研究員を務めていらっしゃいます。

先生の歴史学者としての輝かしいご業績については、私が多くを申し上げる必要はありません。ワシントン海軍軍縮の政治過程を扱われたご論文で、一九九四年にアメリカ海軍大学より Edward S. Miller 賞を、同年、両大戦間の日米の外交政策に関するご著書（『両大戦間の日米関係』）で吉野作造賞を、また、広島・長崎に対する原爆投下と日本の降伏決定過程を取り扱われたご論文で、アメリカ歴史学会より Louis Knott Koontz 記念賞を一九九九年に受けていらっしゃいます。偏ったイデオロギー／価値観から解放された「醒めた」歴史観」が、歴史研究には求められると先生はおっしゃっていますが（「最終講義 原爆投下をめぐる神話と現実」（同志社大学法学部外交史アラムナイ会、二〇〇六年三月、三二頁）、それら、そしてその他の多くの貴重なお仕事をとおして、徹底的な実証的歴史研究のお手本を私たちに示してくださいました。

また、先生の学生に対する指導の熱心さと厳しさは、同志社大学の法学部でも屈指であったと思います。その「成果」は、研究者を含めて各界でご活躍の卒業生を多く世に送られたことから明らかです。

「もし在学中、私の授業が厳しかった（厳しすぎた？）のなら、それはビーマス先生「先生のイエール時代の恩師」の余徳として諒とされたい」と「私の教育と研究の軌跡」（「最終講義」六三頁）でお書きになっていますが、「厳しすぎた」と一〇〇パーセントお認めになっていないのが、いかにも先生らしいと思いました。

先生は、リベラルアーツ・カレッジの伝統を同志社大学は堅持しなければならないと機会があるたびにおっしゃってききました。同志社を心から愛された先生のご忠告を、私たちも今こそ真摯に受け止めたかと考えておりますが、そんな先生にも、同志社のためにこれからも変わらぬご助言を頂きたいと思っております。そして、ますますご健勝で、研究・執筆活動をお続けいただきますことを、本論文の執筆者ならびに同志社法学会一同、心よりお祈りいたします。

二〇〇六年九月

西澤 由隆

法学部長